

地域美産研究会ニュース No.113

発行：平成28年（2016年）8月

第113回催事 地域美産研究会

『浅間山との共生に学ぶ』

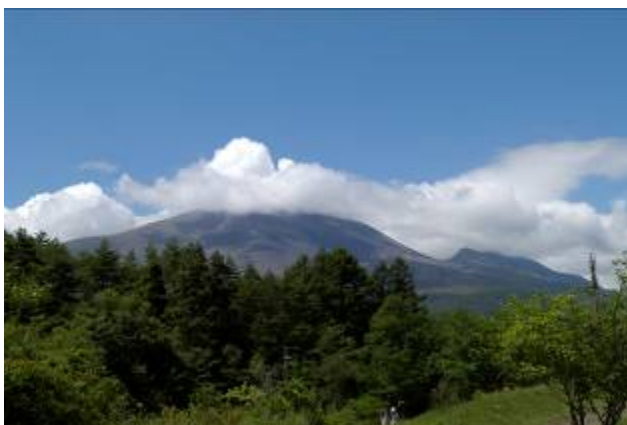
実施期日：平成28年11月5日・6日（土・日）

今回ご案内する北軽井沢は、夏に賑わうリゾートの軽井沢とは趣が大きく異なっています。

浅間山は日本でも有数の活火山で、度々噴火活動を繰り返し周辺の環境を零に戻してきました。天明3年（1783）の噴火は、浅間山北麓に甚大な被害をもたらしました。この一帯は「六里ヶ原の焼け原」と呼ばれる荒れ地となりました。火砕流によって壊滅され、村民の八割が失われた鎌原村はその後、復興を見事に果たしています。この荒れ地は戦後満蒙からの引揚者の想像を絶する苦難や努力の開拓の結果、県内有数の酪・農地帯になりました。現在は植生も復活し立派な紅葉の森になっています。

大正期、この水も電気もないところに鉄道が開通すると避暑地として、独自の別荘文化が誕生しました。旧一高の同窓生が大正二年につくった「一匡社」の大村正夫や細貝正邦等が別荘をつくり「一匡むら」と名付け、土地を共有地とし住民の自主的管理が行われました。この初期のむらは、西村伊作の設計です。数年後、法政大学学長松室致によって「法政大学村」が開村、教職員を中心に多くの文化人が集まり「健全な、質素な、愉快的な共同生活」を目指しました。その他、「音楽村」など自由でアカデミックな別荘地があります。

現在この地域の自然風土、浅間山の特性を活かした北軽井沢の生活スタイルを創造していこうという活動を地元の関係者から紹介して頂き、楽しい意見交換を行います。



浅間山



一匡むら

＜探訪予定コース＞ p3. 探訪コース参照

企画 後藤 元一（ごとう げんいち）

地域美産研究会アドバイザー。後藤環境デザイン研究室。専門は環境デザイン、まちづくり、伝統的環境整備、史跡整備、地域デザイン活動の発掘など。NPO 法人浅間北軽スタイル・顧問

第 113 回催事
『浅間山との共生に学ぶ』

探訪会

日 時	平成 28 年 11 月 5 日（土）・6 日（日）
集 合 時 間 ・ 場 所	JR 軽井沢東口駐車場 10：00 集合
探 訪 コー ス（ 予 定 ）	<p>軽井沢→</p> <p>浅間牧場 → 鎌原村集落・観音堂・資料館 → 狩宿宿</p> <p>一匡むら → 北軽ミュージックホール → こぶしの家（地元関係者との交流・意見交換）→地蔵川温泉ホテル</p> <p>地蔵川温泉ホテル → 大学村 → ルオムの森（田中銀之助別荘）</p> <p>北軽井沢バス停（解散）バスで軽井沢駅 → 東京</p> <p>（おそらく紅葉が見頃です）</p>
参 加 人 数	移動車の都合で10名（会員優先）すでに予告の段階で参加希望者8名あり（定員オーバーの場合はキャンセル待ちとなります）
探 訪 会 等 の 参 加 費	3 ページ参照 新幹線代、宿泊費8,640円、帰りバス代1,090円、夕食代
注 意 事 項	暖かく歩きやすい服装・靴でご参加ください。
遅 刻 等 の 連 絡	090-9018-1477

第113回催事
『浅間山との共生に学ぶ』参加申込書

記入日：2016年 月 日

① **9月10日(土)迄**にこの申込書をメール、または郵送で。

ふりがな		性別	男・女	年齢	才	
氏名		職業				
住所						
生年月日						
会員資格						
Tel(自宅)		Fax				
Tel(携帯)		e-mail				
②家族会員と③法人会員は、2名まで当該会員料金で参加可能。						
ふりがな		性別	男・女	年齢	才	
氏名		職業				
ふりがな		性別	男・女	年齢	才	
氏名		職業				

② 参加記入欄（該当金額欄に○を付けて下さい）

	1 探訪会	2 交歓会	3 寄付(任意)	4. 合計
会員	1,000	2000		3,000
家族会員(1名分)	1,000	2000		
法人会員(1名分)	1,000	2000		
家族/法人会員の+1名	1,000	2000		
*学生と地元関係者	1,000	2000		
一般(非会員)	1,500	2000		

参加申込と受付 会員優先で申込先着順とします。以下の申込手続きに従って申し込んでください。

1. 参加申込欄の記入事項欄に必要事項を記入し、メールか郵送で事務局へ。
2. 申込締切日：9月10日(土)
3. 郵便宛先：〒245-0002 横浜市泉区緑園2-1-2-405 藤嶋方
Tel. 090-7827-8228